

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.1

開催地：球磨村神瀬地区

平成19年5月14日(月)、球磨村神瀬地区を皮切りに「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。神瀬地区多目的集会施設にて開催された同報告会には、約100名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

| | |
|----|-----|
| 村内 | 93名 |
| 村外 | 5名 |

※参加者数は記名者数

| 住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問 | ご意見・ご質問への回答 |
|--|--|
| <p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本高水流量、計画高水流量の7,000m³/s、4,000m³/sという値が、どのくらいの数字なのか、感覚がつかめない。「仮にそのような洪水が来たら、この場所ではこの高さまで浸かる。」など、分かりやすく説明して欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 例えば、宅地嵩上げが完了した球磨村一勝地友尻地区における、計画高水流量(人吉4,000m³/s、渡5,500m³/s)相当の水位は、嵩上げ後の地盤高程度の高さとなります。また、基本高水のピーク流量(人吉7,000m³/s)相当の水位は、現地盤の高さよりも約3m高くなります。 ※水位は、現在の堤防や河岸のところに壁があったと仮定して、氾濫せずに洪水が流れた場合の想定水位です。 ご指摘のような観点も踏まえ、今後とも分かりやすい説明が出来るよう努めてまいりたいと考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 新しい降雨データが加わっても基本高水流量が7,000m³/sで変わっていない。川辺川ダムの方針の数値にあわせているのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> 今回基本方針を検討するにあたって、近年までの観測データを用い、全国の河川で一般的に用いられている手法(貯留関数法)で算出した結果、人吉地点において7,000m³/sとなりました。また、算出された流量について、様々な観点でその妥当性を確認し、基本高水のピーク流量を決定したところです。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 嵩上げ、掘削、引堤それぞれ単独でなく、遊水池も考慮して、いろいろな手法を組み合わせるべきである。 | <ul style="list-style-type: none"> 河道でできるだけ多くの流量を安全に流すことを念頭に、河道掘削に加え、引堤や嵩上げ等の方法の組合せも考慮し、環境を含む自然的及び社会的制約の中で、河道でどれだけの流量を安全に流し得るのかという検討を実施しています。 |
| <p>【球磨川の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和40年代から何度も浸水している箇所がある。今後、どのような形で整備を進めていく予定か。 | <ul style="list-style-type: none"> 浸水被害に遭われているの方々に対しましては、河川管理者として大変申し訳なく思っております。 球磨川中流部では、現在も宅地嵩上げ等の治水対策を進めており、現在のところ、42地区のうち10地区が完成し、6地区で事業実施中です。家屋数で見れば事業中の箇所も含めると約7割の整備率となっています。しかしながら、未対策の箇所もございますので、支川管理者である県等とも調整しつつ、できるだけ早期に対策を実施できるよう努力していきたいと考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 瀬戸石ダム湖内の堆積土砂の撤去について、何とかならないか。 | <ul style="list-style-type: none"> 報告会後にご発言いただいた方と一緒に現地を確認させていただきました。なお、国からダム管理者である電源開発に堆積土砂 |

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・宅地の嵩上げによって浸水被害は軽減したが、段差ができてへドロがたまったり、出水時に水が逆流するなどの問題が生じている。相談しても誠意ある対応がみられなかった。 | <p>の撤去の要望があったことを伝えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告会后にご発言いただいた方と一緒に現地を確認させていただきましたが、今後どのような対策がとれるか検討したいと考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・宅地の嵩上げによる整備を進めるのが良い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・治水対策が遅れていることにつきましては、申し訳なく思っております。いただいたご意見は、今後策定する河川整備計画の検討の参考にさせていただきます。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・消防団（水防団）の団員数も減少傾向にある。ダムでも掘削でも堤防でもよいので、とにかく一刻も早く治水対策を進めて欲しい（今年中とか一年以内の短い期間）。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ご心配をおかけしまして申し訳ございません。球磨川の治水対策ができるだけ速やかに実施できるよう、支川管理者である県等とも調整しつつ努力していきたいと考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・仮に川辺川ダムをつくる場合は、いつまでにできるのか。また、事業費はいくらかかるのか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・川辺川ダム計画については、平成19年1月30日に九州農政局長から、国営川辺川土地改良事業における新利水計画は川辺川ダムに依存する利水計画として取りまとめることはない旨の回答をいただいたこと等(発電事業含)もあり、それを踏まえた見直しが必要な状況です。今後策定する河川整備計画の中で川辺川ダムが位置付けられた場合には、ダム計画の見直しを行うこととなります。このため、現時点では工期や事業費についてお示しすることができないこと、ご理解頂ければ幸いです。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・将来に負担を残さないためにも、できるだけ早く安い方法で整備をすすめて欲しい。掘削、堤防嵩上げの方が早くできるのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・球磨川の治水対策については、球磨川全体でどのような方法が最も効率的・効果的であるかを検討した上で具体的な事業を決めていくこととなります。今後、河川整備計画を作成する際に、具体的な治水対策を検討していくこととなります。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムの放流により災害を引き起こしたという話を聞いた。昭和40年の水害発生時の洪水調節の操作の実態について教えて欲しい。 | <p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年7月の洪水では、雨の降り始めから7月2日23時までには入ってくる水をダムに貯めておりません。その後、ダムに入ってくる水の量が増えたため、少しずつダムに水を貯め、球磨川を流れる水の量を減らしました。そして、ダムに入ってくる水の量が最も多くなった7月3日3時頃862m³/sの最大流量がありましたが、ダム操作により341m³/sの洪水調節を行い、521m³/sを放流しています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムの放水の情報を、できるだけ早く水防団に伝えて欲しい。 | <p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日は回答の機会がございませんでした。現在は、以下のとおり情報を伝えていきます。市房ダムの放流に関する通知については、市房ダムから下流の人吉市までサイレン及び広報車による警報や放送を行ってまいります。また、球磨村、芦北町まで防災FAXにて市房ダム下流沿川の市町村へ情報を提供しています。電話での情報提供として自動応答のシステムを運用しており、ここに電話していただくと、直近の貯水位・流入量・放流量及び市房ダム上流の時間雨量を音声で聞くことができます。なお、データは10分単位で更新されています。また、携帯端末からも熊本県統合型防災情 |

| | |
|--|---|
| | 報システムに市房ダムの洪水調節情報をアップし、本年度からどなたでも閲覧できるようにしています。 |
| <p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒瀬ダムや瀬戸石ダムにおいて魚道の整備を行っているが、3～5月にかけて、鮎の遡上が現在どれだけ確認できているのか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・荒瀬ダム及び瀬戸石ダムの魚道では、アユ等の遡上調査を実施し、多くの種類の魚類が通過していることは確認しております。しかしながら、遡上する個体数については、捕獲による魚類等への影響も考慮し、調査しておりません。 |

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。